

26Q-am07

Artabotrys siamensis 葉部より単離した新規カロラン型セスキテルペン

○柳田 容瑠¹, 杉本 幸子¹, 山野 喜¹, 大塚 英昭², 松浪 勝義¹ (¹広島大院医歯薬保,
²安田女大薬)

【目的】カーラウエーク (*Artabotrys siamensis*) はバンレイシ科の木本性つる植物で、タイの森林に分布する固有種である。タイでは植栽としても利用されるが化学成分や生物活性については報告がほとんどない。そこで、今回、本植物の薬学的有用性を見出すために種々の生物活性試験を行い、活性を指標に含有化学成分の探索を行った。

【実験・結果】カーラウエークの乾燥葉部 848.2g をメタノールで抽出し、常法に従い溶媒分配を行った。得られた酢酸エチル可溶画分 24.8g を silica gel, ODS カラムクロマトグラフィー及び HPLC を用いて分離精製を行い、Caryolane 骨格を有する新規化合物 (**1**) を得た。その化学構造は、各種 NMR スペクトルと新モッシャー法により解析し、以下のように絶対立体配置を含めて決定した。

